

平成26年産粗飼料の傾向

研究開発本部 分析グループ 川越 大樹

平成26年度は、全道的に5月中は雨が少なく干ばつ気味となりましたが、6月に入ると6日から20日前後まで長雨となり、1番草の刈取りが遅れ気味となりました。その影響が、成分値の傾向にも現れています。弊社分析グループでの分析結果を基に、各種類での傾向を示しますので、参考として頂ければ幸いです。

●乾草（1番草）の傾向

平成26年産1番乾草の平均値（表1）を見ると、OCWやADFなどの繊維成分値は高い傾向が見られ、非繊維炭水化物（NFC）や粗脂肪は例年より低い傾向で、一昨年・昨年産の1番乾草よりも品質やTDNは劣る傾向になっています。

表1. イネ科主体1番乾草の平均値（乾物%）

	水分	CP	TDN	ADF	OCW	リグニン	NFC	粗脂肪
H26	16.9	8.05	56.4	42.6	73.2	4.31	16.2	1.33
H25	17.3	7.73	57.8	42.5	72.1	4.23	17.6	1.54
H24	17.6	7.09	59.7	41.4	70.0	3.86	20.4	1.54
H23	17.3	7.07	56.5	43.8	73.8	4.90	16.6	1.67
H22	18.5	8.12	56.8	42.6	73.4	4.77	15.3	2.03

●牧草サイレージ（1番草）の傾向

平成26年産1番牧草サイレージ（GS）は、粗蛋白質（CP）が例年よりも低く、ここ数年で最も低い値となっています。NFCは例年並となっているものの、繊維は高い傾向が見られ、TDNや栄養価は低い傾向になっています（表2）。また、リグニンの値は例年に比べ低いものの、Ob/OCWの値は高く、繊維の消化性は低い傾向です（図1）。

表2. イネ科主体1番GSの平均値（乾物%）

	pH	水分	CP	TDN	OCW	リグニン	NFC	粗脂肪
H26	4.04	74.0	10.8	57.8	70.4	4.49	13.1	3.02
H25	4.16	75.7	11.4	58.1	69.7	4.81	13.3	3.19
H24	4.16	74.3	11.1	60.1	67.3	4.35	15.0	3.32
H23	4.19	75.6	11.6	58.5	69.5	4.90	11.9	3.61
H22	4.29	74.7	11.5	57.6	70.7	5.23	10.7	3.68

表3. イネ科主体1番RPの平均値（乾物%）

	水分	CP	TDN	ADF	OCW	リグニン	NFC	粗脂肪
H26	38.8	10.4	57.8	37.4	70.1	4.04	14.5	2.03
H25	41.1	10.9	58.7	39.0	69.2	4.00	14.6	2.26
H24	39.1	10.0	60.6	38.1	67.1	3.68	18.4	2.17
H23	41.0	10.3	59.5	41.5	69.7	4.05	15.2	2.58
H22	40.3	10.7	58.8	41.7	70.0	4.41	14.4	2.73

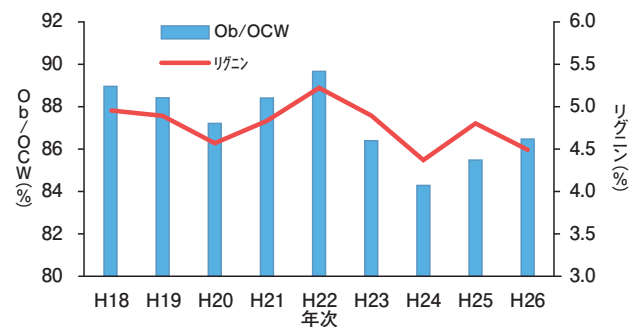


図1. Ob / OCWとリグニンの年度変化（1番牧草サイレージ）

ラップサイレージ（RP）のCPは、例年並であるものの、GSと同様に繊維の値が高く栄養価は低い傾向が見られています。（表3）。

●平成26年産1番草のCPの特徴

平成26年産1番GSの特徴として、CPが低い傾向になっています。CPが14%を超えるサイレージの割合は、ここ数年で最も低く（図2）、CPが10%未満のサイ

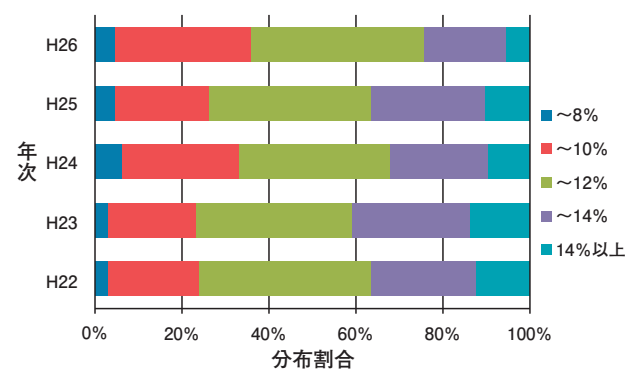


図2. イネ科主体1番GSのCP分布

レージの割合は最も高くなっています。

図3に刈取り日ごとのCP散布図を示しました。一般的に、刈取り日が進むにつれて、CPは低下する傾向にあり、平成26年産1番GSもその傾向が見られています。長雨の影響から、6月20日以降に刈取られたものが大半を占めています。そのため、全道的に刈り遅れ傾向となり、CPも低い傾向になったと考えられます。

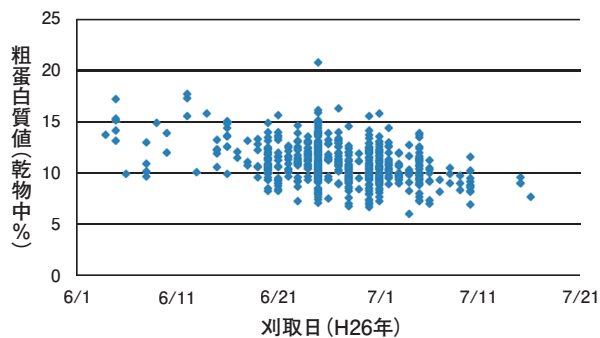


図3. 平成26年産1番GSのCPと刈取り日の散布図

●牧草サイレージ（2番草）の傾向

平成26年産2番GSは、OCWなどの繊維成分値が低く、NFCは高い傾向となっているものの、CPはここ数年で最も低い値となっています(表4)。また、CP分布の内訳でも18%以上の割合はここ数年で最も低く(図4)、14%未満の割合は60%を超え、平成26年産のGSは、1番草だけでなく、2番草でも非常に強い低CP傾向が見られています。

表4. イネ科主体2番GSの平均値(乾物%)

	pH	水分	CP	TDN	OCW	リグニン	NFC	粗脂肪
H26	3.98	70.19	13.72	58.74	62.66	4.80	17.01	3.67
H25	4.06	72.66	14.76	58.23	62.54	5.37	16.54	3.77
H24	4.46	74.44	14.99	57.77	64.02	5.42	14.33	3.84
H23	4.18	72.51	15.12	58.02	63.24	5.49	13.14	4.11
H22	4.22	71.74	15.27	59.37	62.80	5.11	12.82	4.48

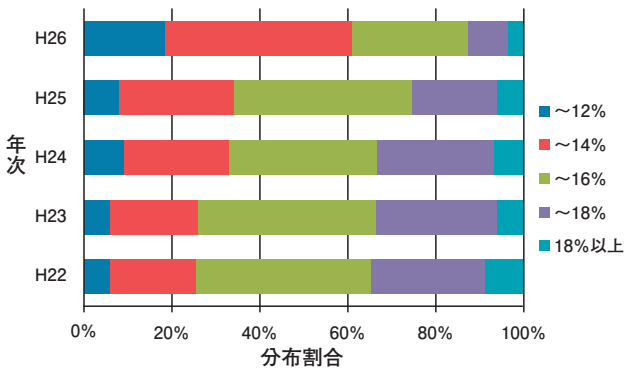


図4. イネ科主体2番GSのCP分布

●トウモロコシサイレージの傾向

平成26年度の天候としては、5月は雨が少なく干ば

つ傾向で推移し、6月には長雨となったものの、それ以後の天候は比較的安定し、トウモロコシの生育は全道的に順調であったと思われます。成分値は、リグニンやNDFの値は例年よりも低い傾向にあり(図5)、NFC、デンプン、粗脂肪は高い傾向が見られ、平成25年産のものよりも品質は良好です(表5)。例年と比較した際も同等かそれ以上の品質となっています。しかし、地域によっては台風や暴風による倒伏、病害の発生の影響を受け、収量の低下だけでなく、サイレージ品質の低下も懸念されますので注意をお願い致します。

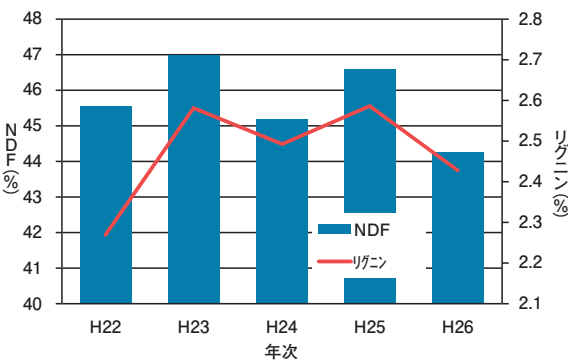


図5. NDFとリグニンの年度変化
(トウモロコシサイレージ)

表5. トウモロコシサイレージの平均値(乾物%)

	pH	TDN	CP	ADF	NFC	デンプン	粗脂肪
H26	3.80	71.4	8.08	22.5	40.3	28.6	3.41
H25	3.79	70.7	8.26	24.5	38.2	25.7	3.33
H24	3.97	71.2	8.43	23.7	39.8	27.4	3.19
H23	3.84	70.1	8.11	24.8	38.5	26.0	2.94
H22	3.85	71.3	8.32	23.1	39.2	27.7	3.23

●まとめ

平成26年度1番GSは、全道的に刈り遅れの傾向で、低CP・高繊維の傾向が見られています。水分は、刈取り後の天候が安定していたこともあり、例年より若干低い傾向が見られています。しかし、中には予乾が十分に行えず高水分で不良発酵しているサイレージも散見されますので、注意が必要です。

平成26年度1番草、2番草共通のポイントは、CPがここ数年で最も低い傾向となっていることです。平成26年産の粗飼料を用いる際には、CPの不足に注意し、再度飼料設計を行うなどCPが充足しているかの確認が必要です。

今回報告した傾向が、すべての粗飼料に当てはまるわけではありませんが、今後給与される粗飼料の目安として頂ければ幸いです。